



いよいよ梅雨を迎え、主要病害の重要時期となります。本年の 5 月の降水量は平年の 70%と少なく、6 月上旬も最高気温が 25℃以上となる日が多く、乾燥した状態が続いていますが、これから一気に本格的な梅雨に入ると病害の感染拡大に最適な「高温多湿」状態となります。

昨年、一昨年来を振り返ってみると、この梅雨時期の防除間隔が大きく空いたり、散布量が不足するなど防除の徹底できず、盛夏期の果実腐敗病が多発する要因となりました。この果実腐敗病は、生産量に大きく影響しますので、この梅雨時期の薬剤散布は遅れないように、散布死角がないように進めましょう！詳しくは下記によりますが、不明な点は営農センターまでお問い合わせください。

りんご「輪紋病」・「炭そ病」・「褐斑病」防除対策

輪紋病・炭そ病・褐斑病は、主に 6 月中旬から 7 月下旬に感染し、一定の潜伏期間（1～3 ヶ月）を経て果実成熟期に病斑として果実に発生します。この時期の薬剤散布は予防効果を狙っています。定期散布は概ね 14 日間隔ですが、雨が続く場合は散布間隔を 10 日程度に短縮するなどの前倒し散布を心がけましょう！詳しくは下記を参考にしてください。

6 月中下旬の定期散布（前回より 15 日後を目安）

*場合により前回より 10 日間隔とする

散布時期： 6 月 20 日～25 日

散布薬剤： 水 1 0 0 リットル

展着剤 1 0 ml

キノンドーフロアブル 1 2 5 ml

オーソサイド水和剤 8 0 1 2 5 g

サイアノックス水和剤 1 0 0 g

（輪紋病・炭疽病・褐斑病対策）

① 展着剤は固着効果の高いアビオン E の 1,000 倍を使用しても良い。

② 輪紋病・炭そ病の発生が心配される園は、ic ボルドー412 の 33 倍を特別散布する。

7 月上旬の定期散布（前回より 15 日後を目安）

*場合により前回より 10 日間隔とする

散布時期： 7 月 5 日～10 日

散布薬剤： 水 1 0 0 リットル

展着剤 1 0 ml

コロマイト乳剤 1 0 0 ml

バイスロイド 5 0 ml

オキシラン水和剤 2 0 0 g

（トップジンM水和剤 6 6 g）

（輪紋病・炭疽病・褐斑病対策）

① 展着剤は固着効果の高いアビオン E の 1,000 倍を使用しても良い。

② 昨年度、褐斑病の発生園は、トップジン M 水和剤 1,500 倍を加用する。

りんご仕上げ摘果・夏季管理講習会の開催について

ふじに中心果の不結実が見られますが、側果も含め、必要量は概ね確保される見通しです。秋の高温が影響してか、本年も花芽が二時伸長してものが多く、全域で果台が異常に長いところへ結実した果実が多々見られます。この場所に結実した果実は青玉になることが多く、仕上げ摘果時には是非除去しておきたいところです。また、スイートやゴールド等の着果過多による隔年結果症状が目立ってきています。そんな現状を踏まえて対策講習会を開催しますので多数の皆さまのご出席をお待ちしております。

*最寄りの会場へ起こし下さい。

月日	時間	集合場所
6 月 28 日（木）	午前 11 時	日野事業所前
	午後 2 時	高丘事業所前
6 月 29 日（金）	午前 9 時	平岡共選所前
	午後 2 時	倭選果所前

- 内容
- ①ふじの青玉果除去のポイントについて
- ②中生種の仕上げ摘果のポイントについて
- ③輪紋病・炭そ病・褐斑病の防除対策について



（注意）
本年もふじの果台が異常に長いもの（2cm 以上）が見られます。その着果したものは青玉になります。極力摘果で除去しましょう！

もも・ネクタリン

川中島白桃の単植園で結実量が不足している園もありますが、必要量は概ね確保されています。

6月に入り気温が高く推移しているため、カメムシ類やモモハモグリガの果実や葉への食害が散見されます。主要害虫の発生時期は昨年より早い状況ですので、園地の状況を良く確認し、定期防除を進めてください。防除対策についての詳細は担当までお問い合わせください。

下記は、24年度の主要品種収穫開始期予想です。この予想は収穫前の天候次第で前後しますが、一定の目安となりますので、日々の作業の参考にしてください。

平成24年もも主要品種収穫開始期		
🚩 たまき	7/20	(前年比△2日)
🚩 白鳳	8/3	(前年比△3日)
🚩 あかつき	8/6	(前年比△2日)
🚩 なつっこ	8/16	(前年比△2日)
🚩 川中島白桃	8/25	(前年比△2日)
🚩 黄金桃	8/28	(前年比△2日)
🚩 白根白桃	9/13	(前年比△2日)

平成24年ネクタリン主要品種収穫開始期		
🚩 サマーC	7/21	(前年比△3日)
🚩 晶光	8/8	(前年比△3日)
🚩 フレーバー	8/16	(前年比△4日)
🚩 ファンタジア	9/1	(前年比△1日)
🚩 秀峰	9/9	(前年比△3日)

苦土・マンガンの葉面散布を実施しよう！

6月に入っても、葉色が薄いものや黄化症状が散見されます。苦土やマンガン等の微量元素は着色や果実品質に影響します。欠乏症状が見られる園地では積極的に葉面散布を実施しましょう！

🚩 苦土欠乏園地（症状：樹全体に葉色が薄い）

→ 葉面散布資材「ビックマグ」の1000倍を3回連続して定期散布に加用する（@1,103円/kg）

🚩 マンガン欠乏園地（症状：新梢葉（先端の葉）の黄化）

→ 葉面散布資材「液体硫酸マンガン」の200倍を6月中旬に散布する（@945円/kg）



←

6月に入ってもマンガン欠乏症状（左写真参照）が全域で散見されます。

症状は、新梢葉が黄化し、小型化して、ひどい場合は落葉します。このマンガンが欠乏すると、肥大不良や着色不良につながる可能性がありますので、症状がひどい場合は、葉面散布を実施しましょう。

せん孔細菌病の春型枝病斑を除去しよう！

6月に入り、せん孔細菌病の春型枝病斑が各地で見られ、ひどい病斑は黒くヤニを噴き出した状態となっています。そのまま放置しておくと、この梅雨の時期に感染が拡大します。特に梅雨明けまでは重要防除期です。感染源となる春型枝病斑の除去を積極的にすすめてください。見分け方が分からない場合は、営農センター担当までお問い合わせください。（担当：金井、佐藤）



- ① 春型枝病斑の特徴…6月に入り古くなると亀裂が生じ、ヤニを出すことが多い。病斑部から先は健全な場合が多い。
- ② 葉病斑…6月以降の感染は細かい病斑となることが多い。